

*Greeting as a new president of The Japanese Society of Inflammation and Regeneration**Kouji Matsushima**

日本炎症・再生医学会新理事長就任のご挨拶

松島 綱治*



このたび、2010年4月より宮坂信之理事長の後任として新理事長に就任いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

本学会は日本の炎症・再生医学研究を代表する学術団体であり、炎症・再生医学研究の相互フィードバック、統合を通してこの分野の発展を図ることを目的とします。昭和47年（1972年）4月に炎症研究会として発足いたしましたが、昭和55年（1980年）からは日本炎症学会として学会に発展し、平成13年（2001年）には現在の日本炎症・再生医学会に改称いたしました。これにより、炎症学から再生医学にわたる広い領域をカバーするとともに、新たな学

際的領域の形成に貢献して参りました。

本会は、アカデミア（基礎と臨床）と製薬企業研究者が一堂に会して炎症・再生医学研究の成果発表・情報交換・討論をできる場を提供し、炎症・再生医学のscienceとしての動向・将来を提示してきました。近年、この分野におきましては、炎症疾患の新しい定義付け（clinical entity）、発症機序の理解につながる数々の発見があります（たとえば、近年のinflammasome/autoinflammationの発見；自然免疫認識機構解明の成果）。また、iPSの発見と脊髄損傷治療などへの応用、抗TNFalpha/IL 6R抗体などに代表される生物製剤、分子標的治療など新規治療法の開発があります。これらに本学会員も大きな貢献をなしております。今後も炎症・再生医学の基礎研究を基盤に新規治療標的探索、創薬技術開発、炎症関連疾患診断、予防・治療ワクチン、再生医学研究の臨床応用、新規薬剤・治療法の臨床試験研究、倫理・規制に関するテーマを推進して参りたいと思います。

2009年東京で開催いたしました第9回国際炎症学会はお陰さまで大きな成功を収め、本会もさらに国際貢献をすることが期待されております。国際炎症学会連合（International Association of Inflammation Societies, IAIS）の活動を支援するとともに今度発足する Asian Pacific rim of Inflammation Research, APIR の中核的学会として活動し、年会、学会誌を含

* Department of Molecular Preventive Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo 東京大学大学院医学系研究科分子予防医学 教授

めて日本炎症・再生医学会の国際化を図って行きたいと思っております。

財政的には30年にわたり本会にご支援を賜りました炎症研究振興会が解散し、本会が財政的に自立することが求められております。このturningpointにあたり、きちんとしたscienceをもって、健全な学会運営、次世代を担う炎症・再生医学研究者の育成を図り本学会の発展に寄与したいと思っております。

皆様からのさらなるご指導，ご鞭撻をお願い申し上げます。

2010年4月